

キリンググループ 2016年度第3四半期決算

2016年10月31日
キリンホールディングス株式会社

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.

- **営業利益は計画を上回る1,106億円（前年比+8.2%）。
迅速に進めてきている構造改革の成果が表れている。**
- **キリンビバレッジの営業利益は、通期計画を大きく上回る156億円
（前年比+146億円）。**
- **その他の主要な事業会社の営業利益も、計画に対し順調に進捗。**
- **定量目標である平準化EPSは、前年同期比+5.7%となった。**

億円	2016年実績	2015年実績	対前年増減	
売上高※1	15,429	16,309	△880	△5.4%
営業利益※2	1,106	1,023	83	8.2%
経常利益	1,080	1,018	61	6.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	751	549	201	36.6%

※1 2016年度から、キリンビバレッジ、メルシャン、およびブラジルキリンにおいて一部販売費を売上高から控除、ミャンマー・ブルワリーが新規連結

※2 営業利益以下について、2016年度は、2015年度に対し、①ミャンマー・ブルワリーが新規連結、②減価償却方法の変更により償却額が約65億円減少、③ブラジルキリンのれん等減損により償却額が約47億円減少

■ 定量目標

	2016年実績	2015年実績	対前年増減	
平準化 E P S (円) ※3	93	88	5	5.7%

※3 明細は、Appendix 1 を参照

■ 財務指標

	2016年実績	2015年実績	対前年増減	
のれん等償却前営業利益 (億円)	1,319	1,281	37	2.9%
E P S (円)	82.31	60.23	22.08	36.7%
のれん等償却前 E P S (円)	114	98	16	16.8%

● 連結営業利益を70億円上方修正する。

- ✓ キリンビバレッジは、持続的な「利益ある成長」の実現に向けて、4Qも「ブランド力強化」のための投資を継続し、通期営業利益155億円（44億円上方修正）を見込む。
- ✓ その他3Q時点における計画上振れ分を考慮し、グループ全体で70億円上方修正し、通期連結営業利益1,340億円（前年比+7.4%）を見込む。

● のれん等償却前ROE、平準化EPSを上方修正する。

- ✓ 連結営業利益の上方修正により、連結当期純利益予想を50億円上方修正する。
- ✓ これに伴い、のれん等償却前ROEを18.4%、平準化EPSを115円に上方修正する。

通期連結業績予想修正の概要

億円	通期連結業績予想		差異	備考	2015 実績	対前年 増減
	3 Q修正	2 Q予想				
売上高	20,900	20,800	100	麒麟ビバレッジ：+79 日本総合飲料その他：+20	21,969	△4.9%
営業利益	1,340	1,270	70	麒麟ビバレッジ：+44 メルシャン：+8 日本総合飲料その他：+17	1,247	7.4%
経常利益	1,320	1,250	70		1,281	3.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	850	800	50		△473	—

■ 定量目標

	3 Q修正予想	2 Q予想	差異	2015実績	対前年増減
のれん等償却前 ROE	18.4%	16.4%	2.0	△0.3%	—
平準化EPS	115円	113円	2円	117円	△1.7%

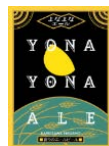
キリンビール

- ✓ ビール類の販売数量は、上半期－6.8%から、7～9月は前年並みの－0%に回復。（1-9月：－4%）
- ✓ 「47都道府県の一番搾り」がお客様のご支持をいただき、ビールカテゴリーは7～9月で1%増加。（1-9月：－0%）
10月には、米国を代表するクラフトビールメーカーであるブルックリン・ブルワリー社と資本業務提携を結び、「ビールカテゴリーの魅力化」の取り組みが進捗。
- ✓ 発泡酒、新ジャンルの販売トレンド復調に向け打ち手をスピーディーに展開したことにより、「淡麗」「のどごし」ブランドは回復傾向。
- ✓ コスト削減効果が業績に表れ、「事業基盤強化」が計画以上に進捗。

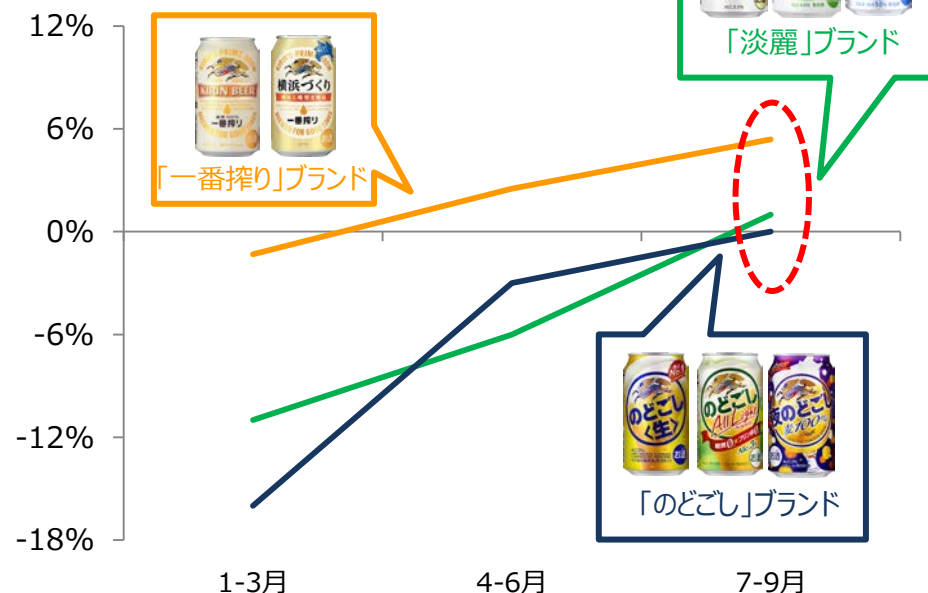
ビールをお客様にとって、“再び魅力あるものに”

47都道府県の一番搾り

一番搾りブランド計 **+3%**



数量増減率推移(3カ月ごと)



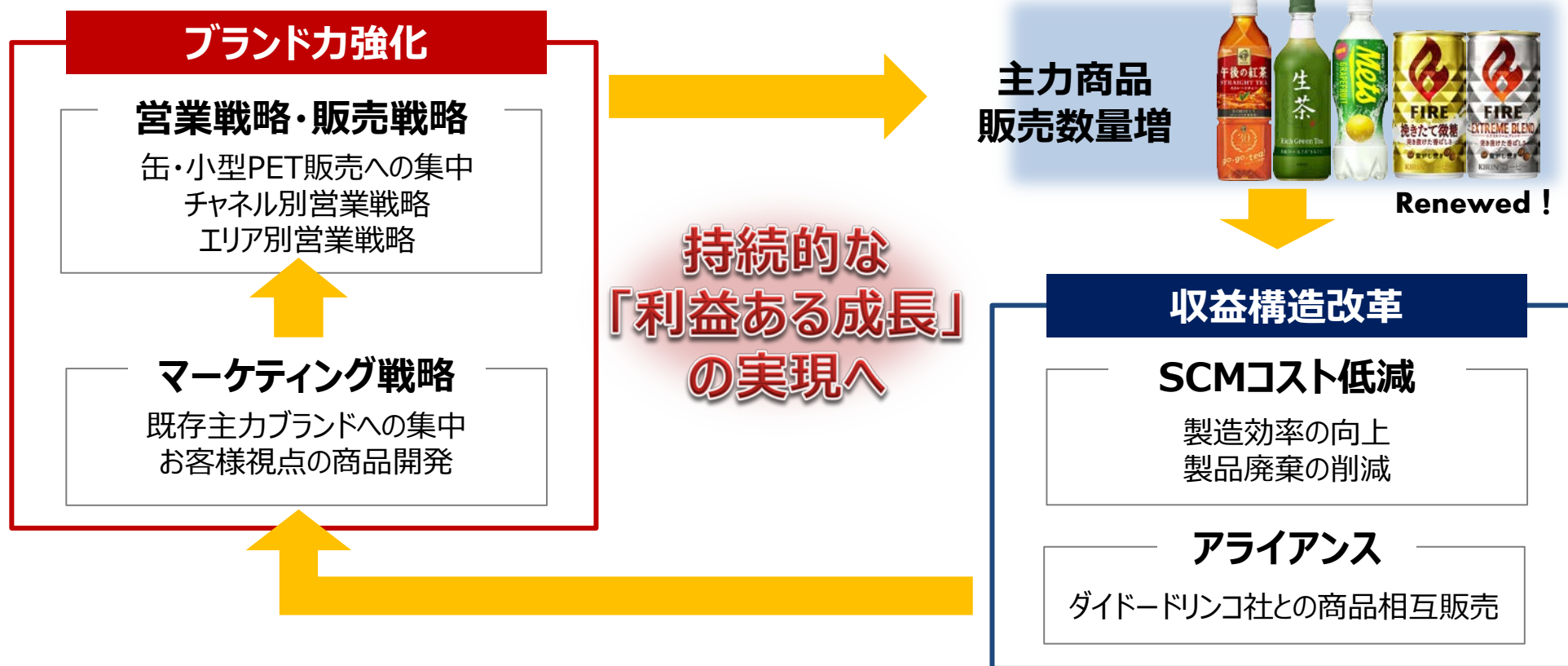
ミャンマー・ブルワリー

- ✓ 自社の主力ブランドにおいて販売数量増を達成。
- ✓ プレミアムカテゴリー商品上市により、商品ポートフォリオの構築が完了。
- ✓ 生産設備増強にも目途がつき、米国の経済制裁解除により見込まれる更なる経済成長、市場成長を取り込む体制が整ってきている。



キリンビバレッジ

- ✓ 基盤ブランド「午後の紅茶」と3大メジャーカテゴリーの主力ブランドへの集中が、効果的、効率的な営業活動、販売活動につながり、計画を大きく上回る販売数量を達成（対前年+9%）。
- ✓ 「ブランド力強化」による主力商品の販売数量増と「収益構造改革」の成果が好循環。



ブラジルキリン

- ✓ 環境の変化、競合の動向を見極めたマーケティングを展開し、ビールの販売数量が+2.0%と対前年プラス。
- ✓ 「収益領域の成長」で成果を上げるためのブランドポートフォリオ構築と地に足のついた経営基盤構築を進めた。

ブランドポートフォリオの構築

クラフト	BADEN BADEN	
プレミアム	一番搾り KIRIN ICHIBAN	EISENBAHN
中価格帯	SCHIN	DEVASSA Pilsen & More
エコノミー	NO GRAU	GLACIAL

効率的経営基盤の構築

- 製造拠点の最適化に向けた協議
- サプライチェーン見直しによるコスト効率化
- 調達コストダウン
- 自社卸の効率化、機能高度化

「収益領域の成長」



DEVASSA

7-9月(注) **+56%**

(注) リニューアル(5月)後の販売トレンドを表しています



クラフト・プレミアム

+452%

- ・ キリンビールは、ビール類全体の販売数量が計画を下回ったものの、ビールカテゴリー強化、コスト削減の取り組みが進み、営業利益は計画に対して順調な進捗。
- ・ キリンビバレッジは、通期計画を大幅に上回る営業利益。メルシャンは、為替がプラスに影響したことなどから、通期営業利益目標に到達。

億円	2016年	2015年	対前年増減	
売上高	8,512	8,698	△185	△2.1%
キリンビール	5,028	5,139	△110	△2.2%
キリンビバレッジ※	2,677	2,763	△85	△3.1%
メルシャン	458	482	△24	△5.1%
その他・内部取引消去	347	312	35	11.4%
営業利益	524	324	199	61.6%
キリンビール	510	470	39	8.4%
キリンビバレッジ	156	9	146	>999%
メルシャン	17	1	16	>999%
その他	△158	△156	△1	—

※ 2016年は、売上高から販売促進費 238億円を控除

	ビール類	R T D	ワイン	清涼飲料
販売数量増減	△4%	+4%	±0%	+9%

億円	2016年 (3Q修正)	2015年 実績	対前年増減		2016年 (2Q予想)	対前年 増減
売上高	11,740	11,915	△175	△1.5%	11,640	△2.3%
麒麟ビール	7,051	7,072	△21	△0.3%	7,051	△0.3%
麒麟ビバレッジ※	3,506	3,720	△214	△5.8%	3,427	△7.9%
メルシャン	674	693	△19	△2.9%	674	△2.9%
その他・内部取引消去	508	428	79	18.7%	487	13.9%
営業利益	630	479	150	31.3%	560	16.7%
麒麟ビール	708	626	81	13.1%	708	13.1%
麒麟ビバレッジ	155	56	98	176.7%	111	96.0%
メルシャン	25	19	5	28.0%	17	△10.5%
その他	△258	△222	△35	—	△276	—

※ 2016年（3Q修正）売上高から販売促進費 332億円を控除

		2016年度	2015年度	対前年増減
売上高 (億円)	ビール	1,970	1,968	0.1%
	発泡酒	1,061	1,119	△5.2%
	新ジャンル	1,131	1,227	△7.8%
	計	4,163	4,315	△3.5%
	RTD	594	574	3.5%
	洋酒・その他	269	249	8.4%

売上高 (億円)	5,028	5,139	△2.2%
酒税売上高 (億円)	2,958	3,023	

2015年度営業利益		470	主な内容
対前年増減 (億円)	酒類限界利益減	△38	ビール減 △2千kl △2億、発泡酒減 △19千kl △20億、新ジャンル減 △36千kl △41億、RTD増 8千kl 7億、品種構成による差異 他
	原材料費減	29	原料費減 24億、包材費減 6億
	販売費増	△13	販売促進費増 △34億、広告費減 24億 (計 700億→710億) 他 (ビール・発泡酒・新ジャンル △4億、RTD △5億 他)
	その他費用減	61	減価償却費減 44億、人件費減 15億、電力・燃料費減 10億 他
	計	39	※償却方法変更影響 32億円含む
2016年度営業利益		510	

販売数量（万ケース）		2016年度	2015年度	対前年増減
カテゴリー別	紅茶	3,743	3,403	10.0%
	日本茶	2,159	1,586	36.1%
	コーヒー飲料	2,242	2,155	4.0%
	果実・野菜飲料	2,112	2,045	3.3%
	炭酸飲料	1,863	1,869	△0.3%
	機能性飲料	681	629	8.3%
	水	3,221	2,964	8.7%
	その他	1,689	1,594	6.0%
容器別	缶	2,962	2,737	8.2%
	大型PET	5,866	5,319	10.3%
	小型PET	7,038	6,500	8.3%
	その他	1,844	1,689	9.2%
	計	17,710	16,245	9.0%
売上高（億円）		2,677	2,763	△3.1%

※ 2016年度 売上高から販売促進費238億円を控除

2015年度営業利益		9	主な内容
対前年増減 （億円）	清涼飲料限界利益増	44	販売数量増 1,465万ケース 64億 商品・容器構成差異等 △20億
	原材料費等減	49	原料費減 17億、包材費減 10億、加工費減 21億
	販売費減	27	販売促進費減 6億、広告費減 21億（計 290億→262億）
	その他費用減	25	販売機器費減 他
	計	146	※償却方法変更影響 33億円含む
2016年度営業利益		156	

- ・ 酒類は、販売数量が上昇トレンドとなり、売上高、営業利益とも計画どおりに推移。
- ・ 飲料は、再生計画の着実な実行により、計画を上回る営業利益。

	円ベース（億円）			
	2016年	2015年	増減額	増減%
売上高	2,876	3,394	△518	△15.3
酒類	1,726	1,916	△189	△9.9
飲料	1,149	1,477	△328	△22.2
のれん等償却前営業利益	420	485	△64	△13.3
酒類※	438	518	△80	△15.4
飲料※	32	18	13	70.7
本社※	△49	△52	2	—
のれん償却額	△81	△93	11	—
ブランド償却額	△24	△28	4	—
営業利益	314	363	△48	△13.4

	豪ドルベース（百万豪ドル）			
	2016年	2015年	増減額	増減%
売上高	3,429	3,565	△136	△3.8
酒類	2,058	2,013	45	2.3
飲料	1,370	1,552	△181	△11.7
のれん等償却前営業利益	501	509	△8	△1.6
酒類※	522	544	△21	△4.0
飲料※	38	19	18	93.7
本社※	△59	△54	△4	—
のれん償却額	△97	△97	0	—
ブランド償却額	△28	△30	1	—
営業利益	375	381	△6	△1.7

連結期間：2015年10月～2016年6月 為替レート：83.87円（前年同期：95.19円）

※ 2015年度実績の事業別内訳は、2016年度本社費用賦課ルールの変更を反映

■ 販売数量増減

(%)	対前年
酒類	△1.1
飲料	△11.3

■ のれん等償却前営業利益増減

百万豪ドル	酒類	飲料
2015年度	544	19
販売数量増減	△17	△36
その他	△5	55
2016年度	522	38

	円ベース（億円）				豪ドルベース（百万豪ドル）			
	2016年 (2Q修正)	2015年 実績	増減額	増減%	2016年 (2Q修正)	2015年 実績	増減額	増減%
売上高	3,745	4,387	△641	△14.6	4,513	4,709	△196	△4.2
酒類	2,205	2,486	△281	△11.3	2,657	2,669	△12	△0.5
飲料	1,540	1,900	△360	△19.0	1,856	2,040	△184	△9.0
のれん等償却前営業利益	565	639	△74	△11.6	681	686	△5	△0.8
酒類※	579	672	△92	△13.8	698	721	△23	△3.2
飲料※	64	43	21	49.1	77	46	31	67.3
本社※	△78	△76	△2	—	△94	△81	△12	—
のれん償却額	△108	△121	13	—	△130	△130	0	—
ブランド償却額	△31	△37	5	—	△38	△39	1	—
営業利益	425	480	△55	△11.5	512	516	△3	△0.7

連結期間：2015年10月～2016年9月 為替レート：83.00円（前年同期：93.16円）

※ 2015年度営業利益の事業別内訳は、本社費用配賦ルールの再変更を反映

- ・ 今期から一部販売費が売上高控除となった影響により減収となったが、この影響を除けば実質増収。
1-9月では、上半期のレアル安による原材料費増加等により減益となったものの、7-9月は増収増益。
構造改革の成果がより鮮明に表れた。
- ・ 販売数量はほぼ計画どおり、売上高、営業利益は計画を上回る進捗となった。

	円ベース（億円）				レアルベース（百万レアル）			
	2016年	2015年	増減額	増減%	2016年	2015年	増減額	増減%
売上高	791	984	△192	△19.6	2,543	2,594	△50	△2.0
のれん等償却前営業利益	△81	△54	△26	—	△262	△144	△118	—
のれん償却額	—	△33	33	—	—	△88	88	—
ブランド償却額	△5	△19	14	—	△16	△52	35	—
営業利益	△86	△107	21	—	△278	△284	5	—
EBITDA	△15	36	△51	—	△49	95	△144	—

連結期間：2016年1月～2016年9月

為替レート：31.12円（前年同期：37.94円）

■ 販売数量増減

(%)	対前年
ビール	+2.0
清涼飲料	+12.4
合計	+5.7

<参考> 市場動向（SICOBE）

- ・ビール：対前年△1.7%
- ・炭酸飲料：対前年△4.5%

■ のれん等償却前営業利益対前年増減

粗利の減少 △R\$331MM

- ・ 2015年の増税、会計処理変更による売上控除額増加による売上高減少
- ・ レアル安及び市況による原材料費増加

販管費の減少 R\$212MM

- ・ 販売費のうち、量販店へのリベートで売上控除となった分が減少
- ・ 効率化によるコスト削減

	円ベース（億円）				リアルベース（百万リアル）			
	2016年 (2Q修正)	2015年 実績	増減額	増減%	2016年 (2Q修正)	2015年 実績	増減額	増減%
売上高	1,129	1,342	△213	△15.9	3,765	3,698	66	1.8
のれん等償却前 営業利益	△89	△117	28	—	△296	△322	25	—
のれん償却額	—	△42	42	—	—	△117	117	—
ブランド償却額	△6	△25	18	—	△22	△69	47	—
営業利益	△95	△185	89	—	△318	△509	191	—
EBITDA	15	2	12	613.8	50	5	44	763.7

連結期間：2016年1月～2016年12月 為替レート：30.00円（前年同期：36.30円）

- 販売数量は計画を下回ったものの、計画を上回る単価効果、販売費未消化などにより、3Q時点では計画をやや上回る営業利益となった。
- 販売費の未消化等を鑑み、通期業績予想は修正しない。

	3Q実績	
	億円	Billion チャット
売上高	180	194
のれん等償却前営業利益	78	84
のれん償却額	△12	△13
ブランド償却額	△12	△13
営業利益	53	57

連結期間：2015年10月～2016年6月

為替レート：1,000チャット=92.62円

通期業績予想（修正なし）	
億円	Billionチャット
228	253
88	99
△16	△17
△16	△18
56	64

連結期間：2015年10月～2016年9月

為替レート：1,000チャット=90.00円

- ・ 医薬事業については、国内医薬品の売上は通期見通しに対して堅調に推移、研究開発費の一部未消化があるものの、営業利益は通期見通しに対して順調に進捗。
- ・ バイオケミカル事業については、医薬品原薬の一部前倒し出荷や販管費の未消化などにより、営業利益は通期見通しに到達したものの、通期では計画線。

億円	2016年度	2015年度	対前年増減	
売上高	2,524	2,662	△137	△5.2%
協和発酵キリン	2,577	2,729	△151	△5.6%
医薬	1,958	2,081	△122	△5.9%
バイオケミカル	619	648	△29	△4.5%
その他・内部取引消去	△52	△66	13	—
営業利益	291	431	△140	△32.5%
協和発酵キリン	291	431	△140	△32.5%
医薬	220	349	△129	△37.0%
バイオケミカル	47	64	△16	△26.2%
その他・のれん償却額消去	69	64	5	8.9%
のれん償却額	△46	△46	△0	—

億円	2016年 (2Q修正)	2015年	対前年増減	
売上高	3,360	3,557	△197	△5.6%
協和発酵キリン	3,440	3,643	△203	△5.6%
医薬	2,630	2,784	△154	△5.5%
バイオケミカル	810	859	△49	△5.7%
その他・内部取引消去	△80	△85	5	—
営業利益	350	468	△118	△25.2%
協和発酵キリン	350	468	△118	△25.2%
医薬	275	362	△87	△24.0%
バイオケミカル	45	81	△36	△44.6%
その他・のれん償却額消去	91	86	5	5.9%
のれん償却額	△61	△61	—	—

億円	2016年目標 (3Q修正)	2016年3Q	2015年3Q
親会社株主に帰属する四半期純利益	850	751	549
のれん等償却額	386	291	340
税金等調整後特別損益	△184	△192	△87
平準化四半期純利益 ①	1,051	850	803
期中平均株式数（千株）②	912,523	912,524	912,539
平準化EPS（円）①÷②	115	93	88

KIRIN